

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の皆さんとの交流、ボランティアとの交流、自然との対話等多くの事によって理念の共有と実践ができていと思われる	事業所が掲げている理念の共有と実践のため職員会議や毎朝のミーティングの時間に、管理者から理念に基づく話を聞いたり皆で話し合うなど、意識づけが行われている。職員は理念を深く理解しており、日々実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の出来事など広報により伝達されるが、その中に入り交友の機会を作ることが困難	毎月27日にお茶のみ会を開催し地域の住民と交流している。近隣の高校の生徒が芋掘り応援に来たり、保育園児とのふれあいや中学生の体験学習の受け入れ、村民祭に出かけるなど、地域社会と意欲的に交流している。ホームだよりは家族や隣組、保育園、小中高校、運営推進会議メンバー、法人理事等に配布している。毎月届く広報誌から村内の情報を知り外出や行事の参考にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	農林高校での介護講座「基礎介護」でグループホームふきんとを紹介並びに認知症の理解を進めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開いてふきんとの実状を報告している 参加者の意識は協力的であり、サービスに活かされている	今年度は2回開催している。利用者、家族代表、区長、民生委員、隣組役員、村役場担当者、地域消防団員が参加し事業所の活動報告と議題に沿った話し合いが行われている。メンバーから率直な意見や助言をいただき、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議について参加メンバーや関係者等と相談し、曜日や時間帯等も調整し、徐々に回数を増やしていかれることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	理事会、運営推進会議等に参加していただき協力関係を築きつつある	役場がすぐ近くにあるので出向き、顔をあわせて相談している。担当者はいつも気軽に対応してくれており、県からの伝達事項や資料等があれば届けてくれるなど協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束についての学習をし、拘束をしないケアに努めている	基本的には身体拘束や施錠は行わない方針である。サービスの提供内容を振り返り、「その行為は拘束に当たらないか」等、気になることがあれば皆で話し合い確認をしている。拘束に関する具体的な行為の理解に努め、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について研修会を開き、職員間で共通認識をもつよう努めている		

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度理解と活用について研修をしたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書による説明をしているし、家族会の折など話をするようにしている 疑問点などには説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望等を聞く機会を作っている その意見は反映している	家族会は毎月あり、入居者、家族、職員がお茶や食事をしながら懇談している。家族も職員も打ち解けて話すことが出来ている。職員は常に入居者や家族からの話をしっかりと聴くことに努めている。報告すべきことは報告し、家族等との関係を大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会および、毎朝のミーティングを設けている中で職員の意見や提案を聞き、反映させている	職員会議は和気藹々とした雰囲気で行われている。法人理事や管理者は運営に関すること、重要なこと等、何でも相談し決めることにしている。法人理事、管理者、職員はお互いを信頼しあっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生事業を整えるように務めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	そのように進め、努力してもらっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実施している		

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員はコミュニケーションの大切さにきづき努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者への訪問をなるべく多くもってもらう中で要望などを聞き家族との関係づくりに努めるように努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とする支援の見極めとそのため最良の対応の実施につとめている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	よりそう介護を目標に暮らしを共にする者として職員はつとめている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも訪問してもらうことを条件にしている中で家族との関係を蜜にしていけるよう考えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	心がけて、声をかけている	入居者の生活習慣や楽しみ、趣味などを家族等から情報として得ている。入居者の地元の神社やお寺、高原、湖など慣れ親しんだ場所に積極的に出かけている。毎年、県外に住む戦友が訪ねてくると、「オーツ」、「オーツ」と声を掛け合い一日話をして過ごしたり、時には皆と一緒に花見に行くこともあったと伺った。入居者が大切にしている人や場所はホームにとっても大切なこととして受け止め支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	試行錯誤の中で実施するよう努力している		

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談できる窓口を作っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人によりそった介護をする中で本人の希望や意向を把握するよう努めている	毎日の関わりの中で一人ひとりに話しかけながら意向の把握に努めている。意思表示が難しい人で問いかけに直ぐに反応が出来なくても、しばらく様子を見ることにより何等かの反応が出るのでそれを参考に汲み取っている。職員は入居者の小さなサインが解るようになって来ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から利用者のこれまでの生活について話を聞く中で一人一人の生活歴を少しでも多く把握し、安心して生活できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常を共に過ごす事で、現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティングで、問題点やアイデアを出し合い、計画している	本人や家族の希望・意向を基に、その人らしく自律した生活出来るよう全職員の意見や気づきを参考に介護計画を作成している。毎日のミーティングで一人ひとりの状況を確認したり話し合いが行われている。毎月の職員会議で見直しを行い、現状に合わない判断された場合には新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌により日々のケアや気づきを行い、ケアカンファレンスにより情報の共有や計画の見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	少人数の良い所で、ニーズに即した対応が、柔軟に取り組んでいる		

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアにも更にはいっていただけるようにしたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	実施している	各入居者の馴染みのかかりつけ医が事業所の協力医となっており、定期的に診察を受けている。場合によっては往診も可能である。入居者の状態に異常が生じた場合にはかかりつけ医と連携しながら必要な治療が受けられるよう支援している。夜間等緊急時の対応のために飯山赤十字病院との連携体制も構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいないのでかかりつけの医者と常に連絡をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	情報交換や相談にのるよう準備している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としては、そのような方針である十分な説明はしていないが、入所時、話をしている	重度化した場合や看取りの支援に関する事業所の方針を契約時に説明している。平成15年開設以降対象の方はいないが徐々に重度化しつつあるため家族等に現状を報告し今後のことを話し合っている。一人ひとりの意向に沿う支援をしたいと全職員の意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回応急手当の訓練をしているが、時に応じて練習をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回災害訓練をしている	消防署立会いの下、昼間や夜間を想定した避難、通報訓練と消火器の扱い方の訓練を定期的に行っている。また、運営推進会議メンバーと防災訓練を行い、協力体制について検討している。食料品や介護用品等の備えもされている。同業者の火災報道の後、直ちにミーティングでホーム内の点検や防災に関する話し合いを行った。	

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	そのような心がけに注意し、対応の検討に心がけている	入居者のプライドやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に日々取り組んでいる。馴れ合いから好ましくない支援や対応があった場合には注意を促し、皆でその事実を共有している。丁寧な言葉で話すこと、分かりやすい言葉で最後まできちんと話すことなどに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望をまずきくことに心がけている トイレ、好みなど		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の意にあわせていくことは無理(健康状態外)だが、そのように心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や起床時の整髪、口腔衛生、入浴後の化粧等、声をかけながら、職員と楽しく実施している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食作りなどすることもある 片付けもいっしょにすることもある	献立は旬の野菜料理や入居者の食べたい料理、季節の料理などが組み込まれている。入居者の食べやすい食形態で料理が提供されている。食事は皆でテーブルを囲み和やかな雰囲気にも包まれていた。職員の声かけや話に入居者は笑みを浮かべていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養価1480カロリー 水分補給は1000cc を確保している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施している		

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間によるトイレ誘導により排泄のパターンを習慣化するようにつとめている	一人ひとりの排泄パターンを活用しながら誘導し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。立位が困難な方にも日中はトイレでの排泄を行うために二人で対応している。出来るだけオムツを使わないケアを行っている。入居間もない方は在宅と同じように夜間のみポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた予防には飲食物の工夫、運動以外にかかりつけの医師と連携をとりながらの薬の服薬もある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴実施であるが、時間帯は、午後の時間に決めている	入浴の時間になると一人ひとりに合わせた声かけで入浴支援を行っている。その為か入浴を拒む方はおらず、入浴時間以外を希望する方もいない。「いいあんべえだ〜」、「一人だけではもってねえ〜」など、気持ちよく入浴していただいている。毎年家族会を兼ね、日帰りで温泉に出かけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠りにつけるよう、暖房や、静けさに配慮している 自室で眠れない利用者は職員と眠る等		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	クリスマス会、運動会、誕生日、外出、ドライブ、温泉入浴等実施している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段いられない場所、たとえば温泉、水族館など小旅行の計画を立てて実施している	天気の良い日には庭に出て陽の光を浴びたり、ホーム周辺を散歩している。遠方であっても車に分乗し積極的に外出している。近隣市町村へのお花見や紅葉狩り、ケーキ屋でのお誕生会、高原での隣組お茶のみ会とキーボード演奏会、家族会での温泉等、数え切れないほど出かけている。ボランティアのピアノ演奏会に家族やお茶のみ会の知人などと大勢で出かけ、毎年、楽しんでいる。「ふきんとだより」には外出の報告が写真入りで載っており、楽しんでいる様子が窺える。	

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今現在は、お金を自分で持っている人は1人 自分で使おうとする必要性はないようだ		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話にはでていただいている 手紙などは本人はもとよりみなさんの前で読ませてもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい共用の空間づくりの工夫に心がけている	縁側には二つのソファがあり、入居者のお気に入りの場所となっている。そこからは池の鯉や餌場に来る鳥、庭を見ることが出来、リハビリや歌を歌ったり、おしゃべりもしている。玄関ホールは広く、ピアノや立派な仏壇もある。食堂のテーブルを囲んでお茶を飲んだりテレビを見たりして過ごしている。段差は滑り止めをつけた傾斜の板で補修されている。食堂も縁側も気分良く過ごせるよう細かな部分まで配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にある長いすに座って休む利用者もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきてもらい安心して過ごせる居室となるよう心がけている	ベッドに腰掛けたりベット上に横になっても、家族からの贈り物や絵手紙、写真入の家族図、大きな写真のカレンダー、家具などをいつでも見ることが出来るように工夫されている。どの居室も明るくきれいであり、気持ちよく暮らしていることが想像できた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには、自立して移動ができるような工夫をしている		